

## 図書館だより

## 目次

「冬にゆっくり読みたい本」……………	1～3
インフォメーション……………	4

## 『冬にゆっくり読みたい本』

寒い日が続いていますが、そんな時には家でゆっくりと読書をするのはいかがでしょうか。

身体も心も温まるような本から、社会や人生について深く考えさせられる本など、さまざまなお勧め書籍を紹介します。

## 国際学部国際学科

佐藤未央子 准教授 推薦

## 『作家と猫』

平凡社編集部編 平凡社

古今東西の作家49名が綴った、猫をめぐるエッセイや詩、漫画作品が集められた、猫愛にあふれた1冊です。「Ⅰ 猫、この不可思議な生き物」「Ⅱ 猫ほど見惚れるものはない」「Ⅲ いっしょに暮らす日々」「Ⅳ 猫への反省文」「Ⅴ 猫がいない!」「Ⅵ 猫的生き方のススメ」の6章構成。一筋縄ではいかない猫との生活が、リアルに、ユーモアたっぷりに語られています。伊丹十三が、「猫自身は、自分が人間と対等であると思ってるふしがある」と述べているように、読んでみると、猫の妙な人間らしさが思い浮かんできます。

本書の冒頭では、「猫」の定義や名称の由来も紹介されています。それによると、「よく眠る」ことから「寝子」とされたとか。また、鳴き声からきた説も。「猫」の漢字のうち「苗」は「細くて弱い」という意味を持ち、そこから「か弱い・可愛い」という意味を持つという説もあるのだそうです(『日本語語源辞典』)。

どの章も愛に満ち溢れていて、読んでいて幸せな気持ちになり、私も実家の猫に会いたくなります。猫と人間の絆は、昔から現代まで変わらないものだと思います。寒い日が続く中、猫の温もりに思いを馳せながら読んでみるのはいかがでしょうか。

## 子ども学部子ども学科

味府美香 教授 推薦

## 『ビジネスでたどる西洋音楽史 歴代作曲家ギャラ比ベ』

山根悟郎著 学研プラス

本書は、名曲を生み出した偉大な作曲家たちの、知られざる懐事情から西洋音楽史をたどっていきます。「音楽の父」と呼ばれるバッハ(収入「C」ランク)から、20世紀に活躍したストラヴィンスキー(収入「B」ランク)まで、彼らの収入が「現代の日本円」に換算・紹介され、堅物?なイメージの裏にある、意外な生活ぶりが見えてきます。音楽室の肖像画のように、真面目でちょっと怖げな顔の裏に隠された、人間味あふれる一面に触れることができるでしょう。

本書の面白いところは、単なる収入額の比較にとどまらない点です。「贅沢度」「慈善度」「後世への影響」「親の経済力」「音楽一家度」といった多角的な視点から、作曲家たちのギャラを比較していきます。例えば、ニューイヤーコンサートでお馴染みの《ラデツキー行進曲》の作曲家シュトラウスは、最高ランクの収入「SSS」ですが、慈善度は最低の「C」。一方、サッカーの応援歌として使用される《凱旋行進曲》を作曲したヴェルディは収入「SS」の富裕層でありながら、慈善度も「S」という最高ランクです。こうした意外な事実の数々が、彼らの人物像をより深く、立体的にうつし出していきます。

「この曲はどんな曲だったかな?」と気になった時には、音源サイト(Spotify)へ直接アクセスできる仕組みも嬉しいポイントです。温かい部屋でゆっくり、実際に曲を聴きながら読み進める、そんな贅沢な時間が過ごせる一冊です。



請求記号: 914.68/Hei  
資料ID: 901122026



請求記号: 762.8/Yam  
資料ID: 901120433

## 『冬にゆっくり読みたい本』

応用心理学部臨床心理学科

井上忠典 教授 推薦

『学校が合わない子どもたち』

前屋毅著 青春出版社

多くの人は、子どもが学校に行くのは当たり前のことと思っている。それができずに学校に行かないことを不登校と呼び、以前はその子どもに何らかの問題があると考え、傾向が強かった。現在では、本人の問題のほか、学校、家庭など、幅広い要因が複合的に絡まって不登校に至ると考えられている。それでも、筆者は「問題は学校に来ない子どもにある」というスタンスを学校現場はとり続けていると感じている。

不登校の子どもの数は年々増え続けて、2023年には34万人を越えて過去最高となった。著者は、不登校が増えているのは、本人の問題ではなく、学校に問題があって、「学校が合わない子どもたち」が行き場を失い、やむなく不登校を選択しているからであると考えている。その子たちの居場所、通常の学校以外での学びの場が必要であり、それがフリースクール、もしくはオルタナティブスクールである。いくつかのそれらの活動について、本書では丁寧に紹介している。

考えてみれば、興味も違えば学ぶ進度も子どもごとに違うはずなのに、同じことを同じようにやらせようとする方が無理なことである。新しい学校の登場で、自分に合う学びの場を探せる環境が整いつつある、と著者は考えている。不登校になって新たな学びの場を求めるだけでなく、保護者や子ども自身が自分に合った学びの場を積極的に探し求める時代が近づいているのかも知れない。

本書は、現在の不登校の子どもたちを取り巻く状況について、認識を新たにしてくれる一冊である。



請求記号：/371.42/Mae  
資料 ID：901131142

応用心理学部 健康・スポーツ心理学科

小西瑞穂 准教授 推薦

『白夜行』

東野圭吾著 集英社

冬になると、日々の騒がしさが少し緩んで、ふと自分のことを考える余裕が生まれる—そんなふうを感じる方もいるかもしれません。夜が長いこの季節、本を手にとってみようかな、と気が向く瞬間も増えるのではないのでしょうか。

東野圭吾さんの『白夜行』は、静けさのなかで自分を見つめたいときにそっと寄り添ってくれる一冊かもしれませんが。物語は決して派手なものではないのですが、登場人物のまなざしや、そこに流れる静かな空気に触れているうちに、自分自身の内側についても思いを巡らせることになる、そんな体験につながる瞬間が訪れると思います。

大学生活は、自由で楽しい反面、将来や人間関係など、いろんなことを考えさせられる時期でもありますよね。忙しさに流されながらも、どこかで「今の自分はどんなふうに感じているのだろう」と問いかけてみたくなることがあるのではないのでしょうか。『白夜行』を読む時間が、そんな自分と対話するきっかけになるかもしれません。

この本の登場人物も、簡単には割り切れない感情や状況に揺れながら、それぞれの人生を歩んでいきます。自分とは違う誰かのものの見方や価値観に触れることで、ちょっと距離をおいて自分のことを見つめ直す時間が持てたり、自分の感じていることが少し整理できたりする場面があるかもしれません。

もし、冬の夜に静かに過ごす時間ができたら、ぜひ一度ページをめくってみてください。読後にどんな想いや気持ちが心に残るかは、人それぞれでしょう。でも、そうした「自分の心の声」にゆっくりと耳を傾けられるひとときが、大学時代にはとても大切だと思います。あなたにも、そんな時間が訪れることを願っています。



請求記号：913.6/Hig  
資料 ID：901100854

## 『冬にゆっくり読みたい本』

経営学部経営学科

村山純 教授 推薦

『ハワイを知るための 60 章』

山本真鳥, 山田亨編著 明石書店

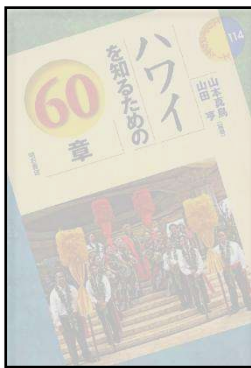
『イザベラ・バードのハワイ紀行』

イザベラ・バード著 近藤純夫訳 平凡社

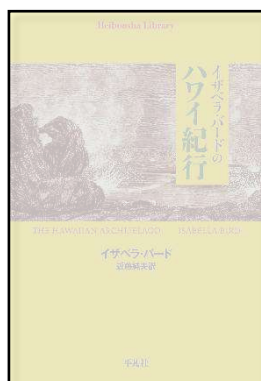
「寒くなったね」、「寒いね、そうそう、冬と言えば読書だね」、などという会話はまず聞かれることがなく、冬といえば、「寒くなったね。何か暖かいもの食べたいね」、「暖かいところ行きたーい。」などという愚劣な会話がほとんどである（含む自分）。

暖かいところ、というと思いつくのは、ワイハことアメリカ合衆国はハワイ州、オアフ島のワイキキビーチかもしれない。

いまでこそ世界的な観光名所のワイキキビーチであるが、昔は単なる湿地帯で、周到な開発計画のもと、砂も本土から運び込み人工的に作られた。このあたりの事情を知るには、『ハワイを知るための 60 章』（国際学部の長島先生が執筆者の一人）がお薦め。また、観光開発以前の昔のハワイを知りたければ、『イザベラ・バードのハワイ紀行』を紐解くのもいいだろう。ワイハに行けなくても、これらの本を読んで暖まろう。



請求記号：302.76/Yam  
資料 ID：901117565



請求記号：/297.6/Bir  
資料 ID：901130910

短期大学 幼児教育科

杉本亜鈴 准教授 推薦

『さむがりやのサンタ』

レイモンド・ブリッグス著 すがはらひろくに訳  
福音館書店

人はいつ大人になるのでしょうか？

早いもので民法改正による「18 歳成年」となってまもなく 4 年が経とうとしています。学生の皆さんは自分のことをもう「大人」だと思いますか？ それとも、まだ「子ども」だと思いますか？ 皆さんのところに、まだサンタクロースは来てくれますか？

かつては自分よりずっと大人だと思っていた年齢に、いざ自分が達したとき「こんなものなのかなあ？」と、不思議に感じる場合があります。保育園や幼稚園では、毎年クリスマス・シーズンになると、小学校入学を控えた年長さんたちが真剣な顔をして議論を交わしています。

「サンタクロースは、実はパパやママなんじゃないのか？」  
「サンタクロースって、、、本当はいないんじゃないか？」

大人が読んでも十分に楽しめるこの絵本は、サンタクロースの存在を疑いたくなったら、ぜひ手にとってみてほしい一冊です。この本のサンタクロースは、プレゼントをくれるやさしいおじいさんの幻想的なイメージを覆すリアリティーを持っています。

「またクリスマスか」とごちて、「やれやれ」とプレゼントを配ります。一仕事終わったら、あったかいお風呂に入り、ウトウトしながら晩酌をする姿は、どこにでもいる普通のおじいさんそのものです。だから説得力があるのです。読めばあなたもきっとと思うはず「間違いなくサンタクロースは居る」…と！

作者のレイモンド・ブリッグスは同書のほか、『ゆきだるま』評論社.1978、『風が吹くとき』篠崎書林.1993、『サンタのなつやすみ』あすなろ書房.1998、などの著作で知られます。「雪」と「雲」と「湯気」を見事に描き分ける作者の美しい筆致は必見です。



請求記号：726.6/サ  
資料 ID：901072643

# Information

## 電子図書館 LibrariE（ライブラリエ）をご利用ください

電子図書館サービス LibrariE をぜひご利用ください。

インターネットの環境が整っていれば、いつでもどこでも、スマートフォン・タブレット・パソコンから小説・ガイドブック・料理レシピなど様々なジャンルの電子書籍を読むことができます。

下記の URL にアクセスするか、本学図書館ホームページから右のバナーをクリックしてください。

<https://web.d-library.jp/tsu/g0101/top/>



## 実習中の長期貸出について

保育・教育実習などのために通常の期間より長く資料を借りたい場合、長期貸出を行っております。

ご希望の方は、貸出手続き時にお申し出ください。貸出期間は、**実習開始日の1週間前から実習終了日の1週間後まで**となります。

但し、長期貸出を受けた資料は貸出期間の延長をすることができません。

## 卒業予定者および大学院修了予定者の方へ

2026年3月に卒業・修了予定の方の最終返却日は **2026年2月28日（土）**となります。返却忘れのないようお気を付けください。



## 開館スケジュール

\* 変更される場合があります。HPや掲示板をご確認下さい。

9:00~21:00							9:00~14:00							休 館						
1 月							2 月							3 月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4							1							1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28		23	24	25	26	27	28	29
														30	31					

東京成徳大学・東京成徳短期大学図書館

<https://tokyoseitoku-opac.limedia.ricoh.co.jp/drupal/>

〒114-0033 東京都北区十条台 1-7-13

Tel : 03-3908-3529

Fax : 03-3908-4549

E-mail : library@tsc.ac.jp

